日本語の渋さ

久保　芹奈（京都産業大学附属高等学校三年生）

日本で生まれ育ち、生活する私にとって日本語は母国語であり、唯一自信を持って話せる言葉です。自分の思いを人に一番伝えやすいのも、もちろん日本語です。高校三年生の夏、私は短期留学をしにアメリカへ行きました。英語に興味を持ち始め、世界の共通語である英語を話せるようになりたいという気持ちで留学を決意しました。英語が得意だったわけではなかったので、実際に英語のみの環境にひとりで飛び込んでみると本当に心細いものでした。私は昔からおしゃべりな性格で人と話すことが大好きでした。思ったことはすぐに人に伝えたいタイプの私が、英語では日本語のようにすらすらと言葉が出てこず、自分の思いを半分程しか人に伝えられなかったことがアメリカでの生活で最も辛いことだったかもしれません。日本にいる時は当たり前のように使っている日本語から離れてみて私は改めて日本語の良さに気付けた気がします。

私が思う日本語の魅力の一つは、地方によって様々な方言や、昔ながらの言葉、若者たちが独自に作り出している若者言葉などといったたくさんある日本語を使って、人それぞれが違った表現の仕方が持てることで個性が際立つところだと思います。日本語には英語にはない敬語や謙譲語といった特有の表現があることなどから、世界でも三本の指に入る程、使いこなすには難しい言語だと言われているそうです。ちなみにあとの二つはフランス語とロシア語だと言われています。日本語は主に日本でしか使えない言語ではありますが、こんなに難しい言語を話せている事が私は嬉しいです。

日本語の良いところは他の言語にはないような表現があるところだと思います。例えば「渋い」という形容詞ですが、日本では主に趣のある情景に対して使ったりすることが多いと思います。広辞苑では「はでやかでなくおちついた深い味があること」だと説明されています。欧米などには日本のような「渋い」という感覚がないので、「渋い」という表現自体がないそうです。現在では親日家である外国人が増えたことや、日本文化が多くの人に注目され、広まったことで、世界最高最大の英語辞典「オックスフォード英語辞典」には、寿司「Sushi」や、将軍「Shogun」、津波「Tsunami」といった日本語がそのまま英語としても使われています。それと同じように、「渋い」も「Shibui」として辞典に載っているのです。

世界遺産が多く日本有数の観光地である京都に住んでいる私にとって、日本ならではの建物や文化が注目されることはとても誇りです。日本語も注文されていることを知り、同じくらい嬉しく誇らしい気持ちになりました。

現在、若者が使う日本語は乱れていると言われることが多いです。しかし今の日本語が今の日本文化を最も強く表すものだと考えることもできるのではないでしょうか。だから若者言葉全てを否定するべきではないと私は思います。正しい日本語を使える能力は必要ですが、最も自分らしい言葉を使い自己表現ができるところが日本語の魅力なのです。

日本語の音の響き、漢字・ひらがな・カタカナといった文字の形、表現の多さ、その全てを「渋い」と感じるのです。